

まえがき

バイオグラフィックは今日、非常に注目を集めています。このテーマに関する多くの書物が出版され、このテーマで開催される講座や講演会にはたくさんの人々が訪れます。バイオグラフィックは、困難で危機的な人生の状況にある人々にとって重要であり、また、病を負うという運命を克服する助けにもなります。しかし、それだけではありません。バイオグラフィックはまた、自己認識を深め、同時に他者への理解と関心を深めようとする人々、そして自らの人生によりよい刺激と発展を求めようとする人々にとっても助けになるのです。

著者は本書を、自らの実践をもとに書き記しました。その背景にははつきりと、彼女の医師としての経験を感ずることができません。本書は、著者自らが個人的に取り組んだ人智学的⁽¹⁾人間学と、ここに示されているバイオグラフィックの発展法則をもとに語られています。そして、どんなバイオグラフィックにおいても、影の側面と同じように光の瞬間を意識的に取り上げ、人生のこの両側面に向かう通

路を見いだし、否定的な暗い部分をも統合し、自分のバイオグラフィックにおけるその意味を認識することが重要であるということです。その際に著者は、例を挙げていつも具体的な人生の状況から始めます。そして読者は、そこからさらに自分自身で考え、自分のバイオグラフィックに取り組み、それを引き受けていこうと感ぜさせられるのです。

本書の第二部では、自分でバイオグラフィックを行うための方法が示されています。ですから誰もがワークを始めることができます。

グードルン・ブルクハルトはブラジルにおけるアントロポゾフィー医学の創始者であり、その活動の中心となった「トピアス・クリニック」で多くの功績を残しています。近年は、癌患者のアフターケア、食餌療法、バイオグラフィックに集中的に取り組み、そのためのケアと療養のクリニック、「アルテミーシア」を設立しました。その後、バイオグラフィックの講演やコースを行なう活動は、ブラジルはもとよりヨーロッパにまで広がり、特に、スイス、ドイツ、スペイン、ポルトガルへは、定期的にバイオグラフィックのために招かれています。自らのブラジルにおける医学的な仕事は、ゲータアヌムの医学部門の目標と靈的に結びついているべきであると、著者は常に望んでいました。彼女のバイオグラフィックに対する視点が、ドイツ語圏の読者の方々にとって実り多きものをもたらすことを願っています。

一九九二年八月　スイス、ドルナツハ

ゲータアヌム医学部門　ミヒャエラ・グレックラー